

神は細部に宿る。

井尻 香代子
IJIRI Kayoko

京都産業大学 文化学部 教授
専門分野：スペイン語圏文学

略歴

- 1977年 福岡県立東筑高等学校卒業
- 1982年 大阪外国語大学外国語学部
イスパニア語学科卒業
- 1984年 神戸市外国語大学
外国語学研究科修了（文学修士）

My Hobby

連句です。連句は江戸時代に芭蕉が革新した「俳諧の連歌」の現代バージョンです。5、6人のグループ（座の連衆といいます）で、5・7・5音の長句、7・7音の短句を交互につなげていく文芸ですが、いくつかのルールを守りながらも自由に想像の翼を広げて、前句に次の句を付けていきます。予想できない展開で一卷の作品ができていくプロセスが何より楽しいです。



BEST SHOT

スペイン南部の都市グラナダの寄木細工のオルゴールです。当時学生だった私には思い切った買い物でしたが、今でも蓋を開けて音楽を聴くたびにグラナダの町とアルハンブラ宮殿の情景がよみがえってくる大事な思い出の品です。

研究テーマ

スペイン語圏の文学と日本の詩歌の交流関係について調べています。現在は、スペイン語圏で日本の俳句が受容されたプロセスと、その結果生み出されたスペイン語俳句の調査・研究をしています。現在世界の多くの言語で作られるようになった俳句の中でも、スペイン語俳句は日系移民（アルゼンチンのケース等）の熱心な普及活動が深く関わっている点で、とりわけ興味深い事例となっています。

研究の道へ進んだきっかけ

学部4年生の時に奨学金を得て、スペインの大学に1年間留学しました。文学理論の講義を受け、多くの古典を読んだことが文学研究に興味を持つきっかけとなりました。この講義の担

当教授が女性で、子育てをしながら教育・研究に取り組んでおられた姿が印象に残っています。この先生とは今も連絡を取り合っていて、私の大事な師のお一人です。

研究者になってよかったと思うこと

好きなことが仕事に反映できること。同じ関心を共有できる仲間が国内、国外にいて、情報を交換できること。研究者仲間との協力関係もこの仕事の醍醐味です。

座右の銘

神は細部に宿る。（もちろん全体との関わりが大事という前提ですが、私は細部が好きです。出典は、ドイツ、フランス、英国と諸説あるようですが、ヨーロッパの格言に近いかと思います。）

研究とプライベートの両立で工夫していること

研究は研究室で行い、できる限り持ち帰り仕事をしないようにしています。しかし、追いつめられたときは、泣く泣く持ち帰ります。特に子育ての期間は、大学と家の時間を切り離し、別の生活をするように努めました。子供との時間は大切なエネルギー源でした。

人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊

これという一冊を選ぶのは難しいです。できるだけ様々な分野の、そして多様な著者の本を読んで下さい。世界が広がって行きます。例えば、こんな本です。

W.B.イェイツ著、井村君江訳『ケルトの薄明』ちくま文庫、2010年第10刷

未来の研究者へ一言

研究者にも実は様々なタイプがあります。一つのテーマに集中する人、多様なテーマの関係性を見つけ出す人、自足型、連携型、色んなアプローチがあるので自分に向いた方法が選べます。楽な職業ではありませんが、やりがいがあります。

